

分 科 会	時 程	教科・科目 学年 授業者	題目と要旨	協議のポイント
A	8:30 受付 9:00 ↓ 10:15	物理 (科学と人間 生活) 1年 栗原	仮説実験授業《自由電子が見えたなら》 「法則的・理論的な認識の基礎」を現象の解釈ではなく、「仮説と実験」に置くような科学の方法を取り入れた楽しい学びを目指す。	問題群の並び、実験の内容、授業の流れ、生徒同士の議論の様子は適切であったか。現象の法則的・理論的な認識に生徒が至るのに適切かどうか。また、そもそもとしてこの授業形態の可否について。
B	8:30 受付 9:00 ↓ 10:15	現代文・ 現代社会 1年 大橋・長平 (TT)	「豊かさ」を考える 現代社会と現代文の融合評論『浪費を妨げる社会』を読解し筆者の主張を理解するとともに、現代社会で扱うGDPなどの経済指標についての理解を深め、言語活動を通じて「豊かさ」についての自分の考えを深める。	次期学習指導要領を見据えた取組である。各教科の目標に示された身につけるべき見方・考え方を共有した教科横断型の授業を行うことで、学ぶことそのものの面白さを生徒に気づかせ、主体的な学びに向かわせるための試みである。試みの成否についてご意見を伺うとともに、教科横断型授業のアイデアを共有する場としたい。
C	10:30 受付 11:00 ↓ 12:15	化学 3年理系 福田圭	動画利用により時間効率を高める反転授業 入試問題のリード文の説明動画を、前日の予習として、生徒に自宅等で視聴させる。各自の復習の度合いから、不確実な部分については、各自で復習しておくことを指示する。当日の授業では、リード文以降の問題を提示し、個人で解答させた後、グループで検討させる。時間効率を高め、協働的で深い学びを目指す。	リード文の解説はどの程度まで行うか。個人、グループの解答時間の配分は、どの程度か。解答（のみで解説は後で）を提示するのはどのタイミングが適切か。解説提示後のグループの振り返りはどの程度行うか。
D	10:30 受付 11:00 ↓ 12:15	体育 全学年 須藤宏	耐久レースに向けた練習について 校訓のひとつである質実剛健の精神を養うことを主たる目的とし、本校学校行事の重要な位置づけとされている栃高耐久レース。1ヶ月半に及ぶ他校に類を見ない過酷な授業の過程により、生徒にもたらす影響などについて考察する。	学校を発着とし住宅街を通過後、永野川に掛かる4つの橋を、生徒自身が選択し折返し地点とする練習コース。この練習コースが個々に掲げた耐久レース本番での目標達成のみならず、進路実現のための土台づくりの一翼を担っているのではないか。
E	13:00 受付 13:30 ↓ 14:45	生物・英語 3年理系 生物選択 野口・猿山 (TT)	AL様の教科横断型授業による ノーベル賞受賞英語論文解釈の深化 山中伸弥教授のiPS細胞の英語論文の一部を協働的に和訳する。国際性育成も視野に入れた分野融合かつ教科横断型の授業。実験結果の図と本文から、ノーベル賞受賞の鍵となった考察を読み取り、科学系英語特有の表現にも触れることで、進路意識の高まりもねらう。	提示した原著の抜粋部分は適当か。グループでの翻訳と内容理解にかける時間配分は妥当であったか。教科融合による科学系英語翻訳に対する助言などは適切であったか。
F	13:00 受付 13:30 ↓ 14:45	美術Ⅰ 1年 相沢 数学Ⅲ 3年理系 石塚	幾何形体の「美しさ」を テーマにした創造的探究活動 栃木県立美術館にある堀内正和の彫刻「ジグザク立方体」を題材に、美術では観賞を、数学では体積を求め、それぞれ創造的探究活動を行った。	共通テーマ：幾何形体の「美しさ」 美術：「幾何形体＝観念的＝普遍的」 「美しさは普遍的」 数学：断面積の積分で体積を求める GeoGebra, ロイロノートを活用する

分科会の流れ

受付 (30分)

接続確認

準備等

授業紹介 (30分)

映像・説明等

(授業者より)

質疑応答・協議 (30分)

質疑応答

協議

まとめ (15分)

まとめ

振り返り

※ 参加された方には、後日アンケートをメールで送付いたしますので、回答していただきますようお願いいたします。